

10-4 大雨のときのことを考え、話し合ってみよう④ — 地域の危険なところや災害時に役立つところを地図に書き込みましょう

風水害時に役立つところ（避難所や消防署など）や人（消防団や自主防災リーダー）を、グループで話し合いながら、地図に書き込みます。



学習の目標
自分が住む地域で風水害時に役立つところや役立つ人材について理解します。これにより、自分が住む地域のことを理解します。



中学
中学生以上



演習



屋内



25分

実施内容

以下の説明文【例】を参考にお話ししてください。

1 「まちを守る施設や人を知る」の資料説明（5分）

⇒資料10-3

説明文【例】

（資料10-3を配付してください。）

続いて、地域の防災を考える上でプラスになる施設や設備、人材について、シールを貼っていきます。なお、シールの色については、資料10-3を参考にしてください。

<「シールを貼る」凡例>

水門・遊水池など水害を防ぐのに役立つ施設▶

まず、「水門・遊水池など」台風や大雨が降った時、水害を防ぐのに役立つ施設があれば、赤色のシールを貼ってください。

役所や医療機関など防災活動を行う機関・施設▶

次に、「役所や医療機関など防災活動を行う機関や施設」に、緑色のシールを貼ってください。具体的には次の機関や施設になります。

『市役所・町村役場、消防署、消防団の詰め所、警察署、交番・派出所、河川や道路などの工事事務所、学校、幼稚園、医療機関（病院・医院）、公民館、ヘリポート、その他公共施設』

地域防災のために役立つ施設▶

次に「地域防災のために役立つ施設」に、青色のシールを貼ってください。具体的には次の施設になります。

『避難所、風水害時に一時的に避難できる施設（3階建以上の鉄筋コンクリート造の建物）、防災行政無線や有線放送の屋外拡声器、防災倉庫、食料・日用品・薬品・燃料等の販売店、重機（クレーンやフォークリフト等）を持っている企業』

頼りになる人がいる場所▶

次に「頼りになる人がいる場所」に、白色のシールを貼ってください。具体的には次のような場所になります。

『自治会、自主防災リーダー、消防署・消防団のOB、医療・看護関係のOB、自治体職員のOB、建設業や修理業などの関係者、民生委員、児童委員、福祉関係者、通訳（外国語・手話）など』

災害の時に手助けが必要な人がいる家の場所▶

次に「災害の時に手助けが必要な人がいる家の場所」に、黄色のシールを貼ってください。具体的には次のような人になります。

『一人暮らしの高齢者、寝たきりの人、障がいのある人、赤ちゃん、子ども、赤ちゃんがおなかの中にいる女性、赤ちゃんがいる母親、外国人』



凡例にしたがいに丸形シールを貼る



防災に関連する施設や場所が一目瞭然

2 地図にシールを貼る（20分）

説明文【例】

それでは、今説明した資料10-3を参考に、グループごとに地図にシールを貼ってください。

指導ポイント

まちのつくりや地域の特徴を理解する中で、水門や遊水池など、風水害の時に役立つ施設であることを知ってもらうことが大切です。また、避難する時に、黄色いシールでマークした場所に、手助けが必要な人がいることを知ってもらうことが大切です。

自主防災組織の関わり方

各グループにはりついて、進行役の手伝いをお願いすることが考えられます。

準備するもの（目安）

準備品	数	備考
□資料「まちを守る施設や人を知る」	グループに1つ	資料10-3（配付用）

ひと工夫

資料10-3に記載している項目以外に、どうしても地図に書き込みたいものがあるかもしれません。そのような質問があったら、自由に書き込んでよいと伝えてください。

教材で示しているペンやシールの色は、ひとつの目安です。自分たちで自由に色を決めてもかまいません。